伝導妨害波測定方法

①LISN（MPW201）の「RF_OUT」コネクタとスペクトラムアナライザ(MSA438E)間を付属のBNC/N変換コネクタを介して同軸ケーブルで接続します。
②MPW201 の「アースターミナル」を基準アースに接続します。
③EUT からの電源ケーブルを MPW201 の電源プラグ「POWER_OUT」に接続します。
④MPW201 の「POWER_IN」に付属の電源ケーブルを（絶縁トランスを介して）AC 電源に接続します。
⑤EUTの電源を投入し、PCソフト上で自動測定画面またはマニュアル測定画面でEUTの伝導ノイズを評価する事ができます。

実際にご使用になられる際には、各取扱説明書で操作方法や設定等をご確認下さい。

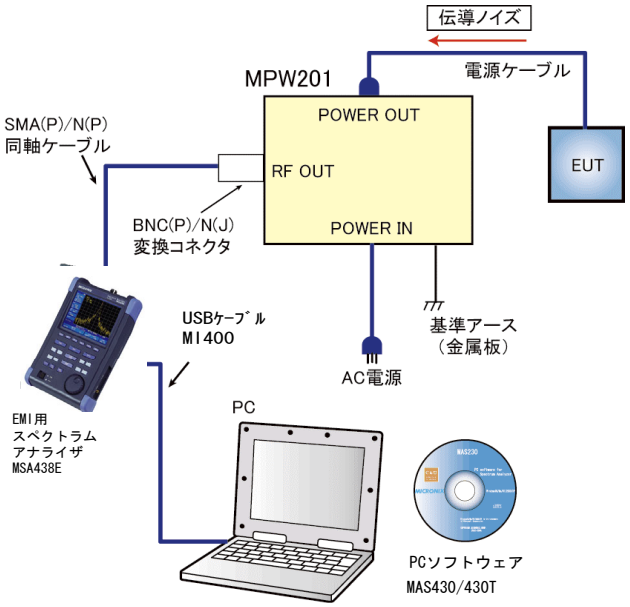
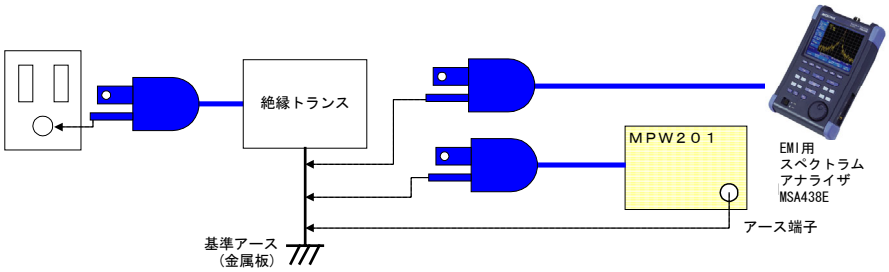


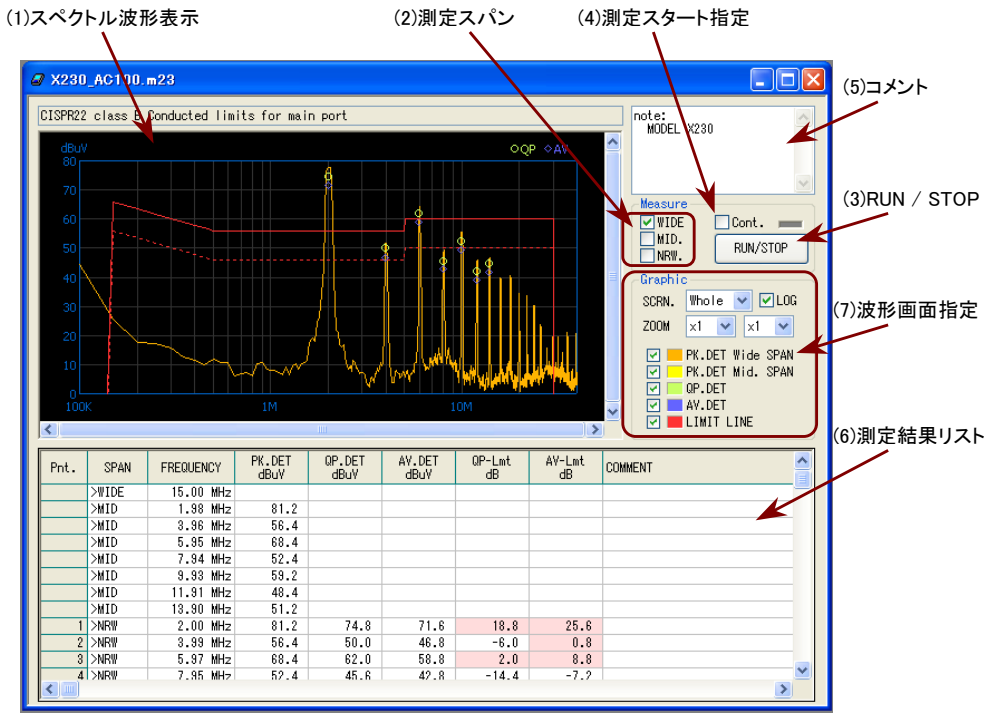
図 3－b. 伝導妨害波測定ブロック図

注）アース端子の接続方法（推奨例）



「基準アース」が 1 点になるように御注意ください
2 点接地となりますと誤った波形が発生し、正常な測定が出来ない場合が有ります。
また、場合によってはスペクトラムアナライザが破損する恐れが有ります。
EUT を接続する前にノイズフロア等を確認してください。

PCソフトウェア（MAS430）使用方法



①EUT，MSA438E，PCの電源を入れ、EMI測定用PCソフトウェア(MAS430)を起動します。

②PCとMSA438Eの通信設定を「MAS430取扱説明書」内の ″SIO 設定(USB 設定)″を
参照して設定して下さい。

③MAS430で測定条件を設定します。以下のいずれかで設定します。

- ″Settings″画面で、既存の測定条件ファイルを読込む。
- ″Settings″画面で、条件をキー入力する。
- 以前に測定保存したデータファイルを開く。

＊Ovr1G を設定した時は、プリアンプの接続を忘れ無いようにしてください

④MAS430の自動測定画面に移り、測定スパンの □WIDE のみチェックし[RUN] させます。

⑤測定結果から、接続・設定等が正常かを確認します。

- 必要なら、″Settings″画面で Ref レベル、Calc.Count を変更します。
- 妨害波スペクトルのいずれもリミットラインを超えていない場合、QP 又は AV検波での測定は行われなくなります。
  データを残す必要がある場合、メニュー[Edit] → [Min. detection level] の手順で検出レベルを下げて下さい。
- 目的の状態になるまで項目④・⑤を繰返します。

⑥自動測定画面で、□WIDE，□MID，□NRW の全てにチェックをいれ、[RUN] させます。